

12月号

いっしん

平成28年(2016年)

第383号

発行：金光教加治木教会 〒899-5213 鹿児島県始良市
加治木町朝日町130発行責任者：矢野文枝 TEL 0995-62-2895 /FAX 020-4665-5653
Mアドレス konko.m.kajiki@ksj.biglobe.ne.jp (HP)http://kajikikon.konjiki.jp/ 《HPはカラーです》

急ぎなば
心静かに
あせらずに
神にまかせて
祈り祈らな
甘本親教会
初代教会長
安武松太郎師神款



相知教会長 佐藤和貴先生



信徒総代玉串奉奠



少年少女会玉串奉奠



青年会玉串奉奠

加治木教会 生神金光大神御大祭 仕えられる

菊の香薫る十一月六日(日)加治木教会では、生神金光大神御大祭が仕えられました。

前日から、信奉者の皆さんにより準備の御用が進められました。

お直会の下ごしらえや、下足箱、玄闕幕などの準備が調っていきました。

御大祭の講師、佐藤和貴先生(佐賀県相知教会長も前日の夕方到着されました。

十一月六日(日)は、爽やかな秋晴れに恵まれました。

御大祭当日も信奉者の皆さん方により、早朝からお直会やお広前参拝者席や隣接教会の先生方をお迎えする接待などの準備が進められました。

午前十一時に、ご祭典が始まり、加治木教会長はじめ、講師の佐藤和貴先生もご参列下さり、隣接関係教会の先生方七名でご祭典が仕えられました。

加治木教会 生神金光大神御大祭参拝…P1~3
「青年のひろば」江田泉先生 講話要旨①…P4~6

お知らせ…P7
行事予定…P8

加治木教会 生神金光大神御大祭

ご祭典後のご教話では、立教神
伝・前講を多良木教会長 梅木博光先
生がお仕え下さいました。

本講は、相知教会長（佐賀県）佐
藤和貴先生でした。

ご教話では、先生のご体験に基づ
く、教主金光様・親教会親先生の御
取次のお言葉やご内容を真剣に真実
に頂かれ信心辛抱を貫いて行かれる
中に、教会家族の信心向上・御用生
活の上に、信奉者の教導・信心育成
の上に、大きなおかげを蒙らせてい
ただくことができ行ったご内容を
真摯にお話し下さいました。

（※教話のCDを希望される方に
は配布させていただいておりますので、
ご希望の方は加治木教会までご連絡
ください。）



講師
相知教会長
佐藤和貴先生



立教神伝・前講
多良木教会長
梅木博光先生



祭員の先生方



婦人会玉串奉奠



少年少女会玉串奉奠



ご祭典の玉串奉奠では、参拝の先
生、参拝教会の代表の方、各会の代
表と順に奉奠させていただきました。
「少年少女会代表」では、二才の
安楽泰成君がお母さんと一緒に奉奠
させていただきました。ごとき
わうるわしいご祭典となりました。
ご祭典の典楽も四名の方が、お楽
の御用に当たられました。

龍笛の上田和也さんは今年の春の記念大祭でデビューされ、加治木教会では今回が三回目の奏楽でした。練習の積み重ねの甲斐あって、だんだんと笛の音が聞こえるようになってきました。典樂の御用に当たる方が増え、信心も技術も育っていくことが願われます。

ご教話後、教会長挨拶があり、ご教話の要点を抑え確認させていただきました。さらに、今も不自由な生活を余儀なくされてある熊本地震の被災者に対する復興支援活動の取り組みについて説明がありました。

お直会も、食前訓を連合会信徒部のお役も頂いている上田さんが先唱して、和気あいあいとした雰囲気です。頂かせていただきました。

このたびの写真係（カメラマン）の御用には、濱口正治さんと松田正樹さんが当たって下さいました。お疲れ様でした。



典樂奉仕者



奉迎委員玉串奉奠



直会開始の食前訓奉唱



前日の御用奉仕 11/5



当日朝の御用奉仕 11/6

金光教鹿児島地方教会連合会主催

「青年のひろば」での講話

平成二十八年九月二十四日・二十五日

〔講話要旨〕後編

《講師》

大分県大鶴教会

江田 泉 先生

《議題》

熊本地震復興支援活動の現状と、

これから私たちは

何をなすべきか！



〔講話要旨〕後編

◆【木山教会のようす】

奥様は「本震がきた、そして余震がきた、というような考え方をしていますまいがちですが、大きな揺れがくるその前に地鳴りがして、スドーンと大きな揺れがきて、そこから後に巨大な洗濯機の中に自分の身があるような感じで、ずーっと揺れているところで、家族で大丈夫か大丈夫かと声をかけてみんなを集めるという状態が二・三十分続いた」とお話し下さいました。



山西教会(4月)



木山教会(4月)



山西教会(テントのお広前)



山西教会(プレハブのお広前)

◆【山西教会のようす】

強い余震がたびたびあるときに、傾いた建物の中で御祈念してあることが思わせられたので「このままでさせてはならん」と思って、テントを購入させてもらって「テントの中に御前を移させてください」と言って、これは少し強引に、テントに御前と御結界をしつらえさせてもらいました。

すると「これで安心して御祈念できます」と言われましたので「先生は、やはりあそこで御祈念してあったんだな」と思わせられました。

◆【私にできることを】

教内のいろんな組織が動いて整地やプレハブの設置などをして下さいました。

私たちは、組織で動いていませんので、大きなことはできません。気づいたところを取り組んで来たようなことです。

でき上がったプレハブの御神前に、御神前らしくなるためにカーテンを取り付けることに取り組ませていただき、色などはリクエストに応じて、山西教会・松橋教会に設置させていただくことができました。

◆【被災教会での活動は、配慮が必要】

被災された教会の先生方は、現地を訪ねられる人たちの対応に追われてクタクタになっておられました。

それが分かったので「何かやることはありますか?」と言って訪ねてくる人の対応を私がさせてもらうことにしました。

現地になるべく居て、被災教会の先生と作業を事前に相談し、整理し、

貯めておいて、誰か来られたときには「これをやってもらいますしょうか」と伝えて、その作業に当たっていただくという、間に立って作用を振り分ける御用を見つけて当たらせていただきます。

◆【宿泊について】

そのような中でも、ボランティアの人達用の宿泊施設が、今二カ所くらいあります。

ある宿泊施設では、ボランティアの情報も集まり、支援物資も集まるようになりました。

そこは、宿泊場所を提供しただけなのに、ボランティアにとって必要ないろんなものが集まり、自ずと支援団体となりました。



ボランティアの宿泊施設(4月頃)



支援物資配布所



◆【「傾聴」と「共感」の違い】

被災者の話を聴くことについて「傾聴」と「共感」があります。

「そんなにキツかったんだ」と言っ、相手の言葉を理解するのが「傾聴」なのです。

「共感」すると、自分の心と与えるダメージが大きいのです。同じ傷を負ってしまうのです。

「傾聴」でも「共感」でも、相手に同じエネルギーを与えることができるらしいのです。

だから「共感」は、絶対にはいけないことなのです。

そんなことも知らずに「共感」してしまい、自分の心に大きなダメージを負う人も出ていますので、気を付けなければなりません。

◆【近隣地域の私たちの出番に】
今、長期のボランティアの人たちが、心の問題や、金銭面の問題ということで、だんだんと身を引いてきています。

近隣地域（隣県）は、かなり責任が重いように思えますし、いよいよ出番なのです。

震災直後には、慣れた人たちが乗り込んで来るといったようなことがあります。長い期間、それが二年、三年、五年ということになると、遠くからの人達にはできなくなっ

てきます。



そのために、今私たちが支援活動について「今から何をどう取り組むか」という段階にきています。

◆【私の中で定まってゆく「神観」】
あるところで、今回の地震について「これは、神様からのお差し向けだ」という言葉を使う教会の先生がおられました。



支援物資配布所

せてもらいます」という受け身側で言うのなら成り立つのでしようが、安易に「これは、神様からのお差し向けだ」とは、言うてはならないと思います。

そのようなところを、このようなことを取り組み、考えさせられ、自分自身の「神観」が定まって行くように思えます。

◆【二人で始めた、小さな活動】

ある先生と二人で、その地方の特産のお米を支援物資としながら、現地に持って行かせてもらって、お米をお配りしながら、被災された方たちの、復興に向けた、生活にちよっとでも入り込んで、心を通わせ合いながら、一般的に言いますと「傾聴」といようなことになりまますけれども、心としては「お取次」をその場で実現できていくことを企（たくら）みながら、支援活動に取り組んでおります。

(終)



ご霊神様のおまじり

十二月

- 吉屋正憲 之霊神(2日) 平成11年
- 本中野キン 之霊神(7日) 昭和10年
- 大山キク 之霊神(7日) 平成7年
- 小屋敷シゲ 之霊神(7日) 平成8年
- 柳園市次郎 之霊神(8日) 昭和25年
- 本中野重盛 之霊神(8日) 昭和39年
- 大山叶人之霊神(14日)
- 徳永盛常 之霊神(18日) 平成2年
- 大山スエケサ之霊神(24日) 昭和51年
- 大山きよ子 之霊神(28日) 昭和43年
- 吉屋キミ 之霊神(30日) 平成22年
- 前田キミ之霊神 昭和43年



「先祖のご霊神様の、現世・幽冥(かくりよ)でのお働きあつての今日の私たちであります。立日の月には、故人を偲び、玉串を奉てんしてお礼を申し上げます。教会では、十日の月例祭で、霊前での玉串の奉てんを準備しています。」

感 詠 (教会長)

育ち行く
若き心を
導くに
祈りの長くなる
祈り重ねて

台風が
去りた後か
いとうに
孫二人に
にぎやか
さされぬ

揺るがぬか
神の計らい
感謝する
己の心
見ておられけり

あしあと 加治木教会行事記録

- 11月
- 1 (火) ●報徳月例祭 10時半
- 5 (土) 御大祭前御用奉仕
- 6 (日) ●加治木教会御大祭 11時
- 9 (水) 斎掃御用 10時
- 10 (木) ●生徳光 月例祭 10時半
- 13 (日) ●大神様 多良木教会80年記念大祭 11時
- 18 (金) 斎掃御用 10時
- 19 (土) 立教記念祭・新穀感謝祭 10時半
- 併せて月例祭・共励会
- 20 (日) 鹿児島教会120年記念大祭 11時
- 23 (祝) 宮之城教会55年記念大祭 11時
- 26 (土) 大口教会御大祭 12時
- 27 (日) 西鹿児島教会御大祭 12時
- 29 (火) 連合会 執行部会 10時半
- 30 (水) 斎掃御用 10時

十二月四日(日) 出発 午前七時半

甘木親教会

生神金光大神御大祭 参拝

十二月二十二日(木) 十六時より

少年少女会・信徒会

歳末感謝パーティー

会費：大人一〇〇〇円・中高生七〇〇円・小人四〇〇円

プレゼント交歓会：一人、二〇〇～三〇〇円相当の
プレゼントを用意して下さい(新品・不用品可)

十二月三十日(金) 十三時半より
加治木教会

越年祭 奉行

越年祭、御礼・お願いの記入用紙を
ご記入の上、御結界にお届け下さい。

一月一日(祝) 正午より
加治木教会

元日 祭 奉行

〔祭典・教話後、福引。〕

教会行事

12月

- 1 (木) ●報徳月例祭 10時半
- 3 (土) ●甘木親教会御大祭 第一日
- 4 (日) ●甘木親教会御大祭 第二日
- 9 (金) 斎掃御用 10時
- 10 (土) ●生神金光 月例祭 10時半
大神様
- 11 (日) 御本部布教功労者報徳祭 (参拝は未定)
- 15 (木) 連布教協議会 (上荒田) 10時半
(教会)
- 18 (日) 吉屋家霊祭
- 21 (水) 斎掃御用 10時
- 22 (木) ●月例祭・共励会 13時半
- 26 (月) ●感謝パーティー 17時より
- 29 (木) ★少年少女会 (工作・門松作り) 10時半
斎掃御用 10時
- 30 (金) ●越年祭 13時半

《未定行事》青年会・若婦人会

1月

- 1 (祝) ●元日祭 正午
- 3 (火) 甘木親教会年頭参拝
- 8 (日) ★少年少女会「鏡開き」 10時半
- 9 (月) 斎掃御用 10時
- 10 (火) ●月例祭 (生神金光 大神様) 10時半
併せて 成人感謝祭
- 21 (土) 斎掃御用 10時半
- 22 (日) ●月例祭・共励会 13時半
- 29 (日) 連合会定期総会 (鹿児島) 10時
(教会に)
- 31 (火) 斎掃御用 10時半

2月

- 12 (日) 加治木教会報徳祭 11時
- 17 (日) 甘木親教会報徳祭 11時
- 19 (日) 上荒田教会報徳祭 11時
- 26 (日) 西鹿児島教会報徳祭 12時

一月八日～二月八日
寒中一斉信行

〔祈念・研修〕午前五時十五分・午前十時